

令和 6 年度

運営に関する計画

【2月 最終評価】

大阪市立開平小学校

(様式2)

大阪市立開平小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上とする。 【R6 87.8%】 ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上とする。 【R6 82%】 ○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.9%以上にする。 【R6 87.7%】 	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校のきまり」について、職員全体で共通理解を図り、児童の規範意識を高めるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡会を月に1回、部会を適宜実施する。また、必要に応じて朝会時に連絡し児童理解に努める。 ・安全な生活を心がけることができるよう各学年に応じた取り組みを1回以上進める。（校舎内での安全歩行） 	B
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の連絡会で情報共有ができた。 ・学年に応じた取り組みや指導により安全な生活を心がけるようになっている。 ・児童朝会で生活目標が共有されてわかりやすく意識できた。 ・「生活指導ワーキング」の活用（悩みを出し合う機会が増えた。具体的な解決の場があつてよい。他の先生方の取り組みや指導方法を聞けて参考になった。） 	
<p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告内容の検討（生活指導と配慮の必要な児童が一緒になっている） ・安全歩行（走る、階段からジャンプなど）は継続して指導が必要。 ・安全歩行の対策を児童に考えさせて実施するのはどうか。 ・衣服の乱れ、名札着用など風紀面にも目を向けていく。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「人との関わり」を扱った資料について重点において指導し、友だちと仲よく助け合ったり、より良い学級や学校をつくったりしようとする態度を養う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「誰にでも優しくした」に対して、肯定的回答をする児童を昨年度と同等の90%程度にする。 【R6 92%】 	

<p>(成果) 道徳や学活、総合的な学習の時間などを使った日々の指導の積み重ねにより、友だちとの関わり方や協力することを学んだり、学校や地域を大切にしようとする気持ちが育つたりしてきた。</p> <p>(改善点) 人との違いを受け入れ、肯定することで、お互いについて認め合えるような取り組みを継続して行っていく。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育の推進のために、環境整備を進めるとともに、児童の相互理解につながる活動や取り組みを実践する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の相互理解や共に学びあえる環境を整えるために、巡回相談や特別支援教育の研修を学期に2回実施する。 ・各学年の発達段階に合わせて、特別支援教育の視点に立った障がいの理解につながる授業を実施する。 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や特別支援教育研修会を計画通り有効に実施することで、教職員のインクルーシブ教育に対する理解が深まり、共に学びあえる環境が整えられたり支援の工夫について考えたりすることができた。 ・各学年の実態や発達段階に合わせて、傷がいの理解につながる授業を、学級と特別支援学級の双方から実施することで、児童の意識に働きかけることができ、児童の相互理解につながった。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年は通級開設の前年度ということもあり、通常学級におけるユニバーサルデザインの環境づくりや授業づくりをもっと進めていく。 	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>なかよし班活動のなかよし班清掃、ワクワクフェスティバルや全校リエンテーリング、ありがとう集会において、異学年集団の関わりを大切にした活動になるように工夫する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班で活動する中で、自分自身の役割を意識することができる機会を設定する。 ・児童アンケートにおける「なかよし班活動などで仲良くみんなと協力した」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を80%以上にする。 【R6 94%】 	
<p>(成果) ABCにグループを分けたことで児童間の関りが深くなり、より濃い関係を築くことができた。集会や清掃など、日常的に縦割り班で活動する中で、自分自身の役割に使命感を持って取り組む姿が多くみられた。</p> <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会やなかよし班活動中のゲーム内容の工夫を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班清掃での、清掃の仕方の指導と教職員の共通理解が必要。 ・なかよし班清掃で振り返りをした後のフィードバックがあれば良い。(丸が多い班に表彰など。) ・今後人数が増えた時の対応の仕方。 	

大阪市立開平小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.1ポイント向上させる。 【4年-0.01 5年+0.09 6年-0.12】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を53.8%以上にする。 【R6 49.9%】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を52%以上にする。 【R6 69.4%】</p>	C
<p>学校の年度目標</p> <p>○令和6年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>船場に学ぶ児童が主体的・対話的に深い学びができるように、各教科・領域、学年の横断的カリキュラムのもと、児童が協働的に学ぶ場を設定した授業を設定する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上を維持する。 【R6 83.7%】 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科を軸として研究を進め、協働的な学び合いの中で話し合うことが定着してきた。 ・普段の授業で、指導者が意図的に話し合う場を設定し、話し合う形態や話し合い方を工夫することで、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を大切にしたりする姿勢が育ってきた。 ・話し合うことの積み重ねが、一人一人の考え方を広げ、深めることにつながった。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・領域、学年の横断的カリキュラムを見直し、どのように児童が協働的に学ぶ場を設定するかを探っていく。 ・聞き手の視点も含めて、目的を明確にし、みんなが参加できる話し合い活動について考える。そのために、個に応じた指導の充実を図る。 ・双方向の充実した話し合い活動になるよう、コミュニケーションについて考えたり、話し合う型や話し合う方法について考える。 	

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

算数科において、児童の実態に応じてクラス内習熟度別少人数指導や分割習熟度別少人数指導などの学習形態も活用して取り組む。発展的な学習内容を充実させるとともに、基礎的・基本的な学習の確実な習得についてもTTを活用することで、意欲的に取り組むことができるようにする。

B

指標

- ・TT体制で習熟度別少人数指導及び専科による指導を充実させ、小学校学力経年調査標準化得点を前年度程度維持する。 【R5 102.9 R6 103.6】

(成果)

TT体制、専科による指導によって苦手意識のある児童へも声掛けをするなど充実した支援を行うことができた。また、学年チームでの体制が整っていることで学習形態を工夫して指導を充実させることができた。

(改善点)

低学年から個別対応が必要な児童が増えているので、対応できる体制を整えていく。

算数科での研究成果を他教科へも生かしていく。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

開校以来全学年で行っている週1回の英語活動と、大阪市が推進する英語短時間学習を計画的に実施し、英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。

B

指標

- ・週2回のドリームと年間時数に沿った英語・外国語活動を計画的に実施し、学校アンケートにおいて「進んで英語を話すことができた」「どちらかといえばできた」と答える児童の割合を80%程度にする。 【R6 87%】
- ・小学校学力経年調査において「外国語（英語）の勉強は好き」「どちらかといえば好き」と答える児童の割合を70%以上にする。 【R6 83.9%】

(成果)

計画的にドリームや外国語活動・英語の学習を進めることができた。低学年から英語に親しむことで英語に抵抗のない児童が増えている。また、C-NETを効果的に活用することで子どもたちの学習意欲を高め、語彙の獲得や英単語を聞き取る力の育成につなげることができている。

(改善点)

低学年の外国語活動の内容の精選や全学年実施の見直しなど児童数に合わせた体制への移行が必要。また、専科が主となってドリームの実施による効果の検証や授業の中におけるアクティビティの割合の精査を行ってより子どもたちの意欲を引き出す工夫に向けた研究を行うべき。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

校内研修、各教科・領域の指導法、特別支援教育、本校のこれまでの取り組みなどについて、年間を見通した研修計画を立案・推進し、授業改善のための具体的な取り組みを進め、教師力の向上を図る。

B

指標

- ・授業を行う全教員が研究を深めるため、一人1授業を行う。
- ・「教科・領域の指導法」「特別支援教育」「ICT」を柱とした教員の研修会を実施する。

<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が研究を深めるための研究体制を考え、一人1授業を計画的に実施することができた。 ・授業研究を通して、教材研究会など、個々の授業改善につながり、日々の指導に生かすことができた。 ・計画的に研修を行い、様々な立場で、自分の学びたい内容に応じて研修に参加し、それぞれの学びを深め、授業力の向上に役立った。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人1授業ができるだけ多く参観できるようにする。(計画的にスケジュールを組む、学年間で連携する) ・時期に合わせて、必要な研修をオープンな形で行っていくことを続けるなど、研究・研修の内容をさらに充実していく。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>運動好きの児童を育てるために、休み時間の運動遊びの充実を図る。また、第2運動場の計画的な運用や体力向上を目指した体育学習及び体育的行事の工夫を行う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて「運動する（体を動かす）ことが好き」と答える児童の割合を80%以上にする。 	
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2運動場、体育館、運動場の運用を計画的にし、各教員が工夫して体育学習及び休み時間を活用している。 ・休み時間の割り当て時間を楽しみにする児童が多く、各学年で遊びなども工夫し、積極的に運動する児童が増えた。 ・なわとび大会や持久走記録会、スポーツフェスティバルなど目標に向けて、休み時間に外に出る児童が増えた。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が外へ出たり、学級遊びを行ったりすることで教室で遊ぶことが好きな児童を外へ連れ出すきっかけを作る工夫が必要。 ・イベントの実施時期や、大繩の貸し出しなど子どもが運動しやすいように声掛けする。 ・体育館使用時は児童数も多く、ケガにつながる利用の仕方もあったので対策が必要 ・夏の暑さにより使用できない場所が出てきているので、体育の年間使用計画の見直し、学年の系統や場所、内容の検討を行う必要がある。 <p>改善点につながる提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育学習の場所の配当を工夫し、より運動する機会を増やすようにする。(体育館と運動場を分ける。オアシスでの学習案を増やす。) ・異学年で過ごせる休み時間を設ける。 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>すこやか週間を毎月設定し、「げんきアップチェックカード」を活用したり、分析したりすることで、全児童が健康的な生活習慣を身に付けることができるようになる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「げんきアップチェックカード」の全項目について、昨年度の水準を維持できるようにする。 	
<p>(成果) すこやか週間での3委員会の取り組みやげんきアップチェックカードを活用した児童への意識づけが効果的に行われた結果、健康への意識が高まり、すべての項目において、昨年度同様高い水準を維持することができた。</p> <p>(改善点) 健康的な生活習慣をつけるために、継続した指導を行う。</p>	

大阪市立開平小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 【R6 0%】 ○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 【R6 79.5%】 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56.4%以上にする。 【R6 71.1%】 	C
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度策定した「開平教育の基本方針」に則り教育活動を推進する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <p>市が進める学校教育ICT活用事業に沿った実践を計画的に進める。 各学年の実態に応じたプログラミング学習の実践を進める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1人1台タブレットパソコンを使うことで、学習を深めることができた」という児童アンケートに対して肯定的回答を80%以上にする。 【R6 92%】 	B
<p>(成果)</p> <p>ルールを決め、学校全体で共有したことで、一人一台端末を正しい方法で活用する児童が増えた。児童が、主体的にあらゆるツールを使用することで、学習を深めることができた。 また、研修を開くことで、情報を共有し、教職員がICTを活用しようとする機会が増えた。</p> <p>(改善点)</p> <p>引き続き、心の天気の呼びかけをする。 研修の回数を増やし、各学年の教科・領域での取り組み例や、新たなツールの使用方法などの情報を共有し、学校全体でICTを活用していく環境を更に整えていく。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>開援隊の図書班や学校図書館司書と連携し、読書好きな子どもたちを育てるための実践を計画的に進める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を振り返る児童用アンケートの中の「進んで読書ができた」という項目において、肯定的回答を75%以上にする。 【R6 84%】 ・学校図書館教育全体計画および、学校運営計画に沿って、委員会活動を主とした読書推進活動を学期に1回以上取り組む。 	B

(成果)

1. 図書館司書との連携

- ・学習で活用できる本の選定を行うことで、図書を活かした各教科・単元の学習が増えた。
- ・各学年にブックトラックを設置することで、本を手に取る機会が多くなった。

◎ 図書館司書教諭から毎週水曜日に読書活動支援をうけ、学校図書館の在り方と共に考え、状況に応じた環境づくりができた。

2. 委員会活動の取り組み

- ・年間計画通りに、学期に一度の読書イベントを実施した。
(1学期：ミニ本づくり 2学期：読書スタンプラリー 3学期：紙芝居の読みきかせ・本くじ)

◎ 図書館に来館し、読書活動に親しむ児童が増え、読書を楽しむ姿が多くみられた。

(改善点)

1. 幅広い読書活動

一冊の本、同じ種類の本を好んで読む児童も多いため、様々なジャンルの本に触れる機会を作っていく必要がある。

2. 図書館・本の使い方

扱い方に注意が必要な様子もみられるため、気持ちよく読書活動ができる環境を学校全体で整えていく。

3. 開援隊との連携

読書活動が充実するような取り組みを共に考える。

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織つくり】

教職員の働き方改革を推進するため、ゆとりの日を週1回設定するとともに、ゆとりの日、それ以外の日の退勤時刻を掲示し、教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の時間外勤務が45時間を超えないようにする）を満たす教職員の割合を前年度以上にする。

【R5 59.4% R6 71.1%】

指標

B

- ・教職員の平均時間外労働時間が校種別平均時間を下回るようにする。

【自校 23時間50分 校種別 23時間57分】

- ・安全衛生委員会を定期的に行い、産業医からのアドバイスをもとに働き方改革を意識する教職員を増やす。

(成果)

ゆとりの日やセット時刻が掲示されていることにより退勤時刻を意識し、仕事の優先順位をつけ見通しをもって計画的に取り組むことができた。

働き方ワーキングなどにより、定期的に見直しも行われている。

(改善点)

校務分掌等、仕事内容の分担を見直し、できるだけ偏りがないようにする。

持ち帰り仕事を減らせるように、仕事内容の精選を図る。